

## 最新情報 ユネスコ世界ジオパークの再審査が行われました！

世界ジオパーク地域は、その価値を保障するため、4年に一度、再審査を受けなくてはなりません。7/24～27の4日間、再審査のために来訪したのは、このお二人の先生でした。



Zhang Jianping  
ザン・ジャンピン先生  
・中国地質大学（北京）の古生物学教授。  
・中国各地のジオパークに詳しい。



Kirstin Lemon  
カースティン・レモン先生  
・英国地質調査所、環境防災チームのリーダー。  
・イギリス世界ジオパーク協会の副会長。

審査の様子は、次回のジオパーク通信で！



## コラム 150年前の船旅 ～ 森から室蘭まで ～

洞爺湖有珠山ジオパーク地域には、1年で43万人以上もの人が海外からやってきます（「平成27年度胆振管内訪日外国人宿泊者数調査結果」より4市町分を抜粋）。飛行機で新千歳空港に着き、そこからJRやバス、レンタカーで移動する人が多いようです。

今から約150年前の1878（明治11）年8月、単身来日したイギリス人探検家イザベラ・バードは、まず函館に上陸。馬に乗って森（渡島管内森町）に向かい、そこから定期船「稲川丸」で噴火湾を横切り、室蘭へ向かいました。約40kmの距離を、6時間かけての船旅です。バードは「実に美しい真っ青な海にはさざ波が白く立ち、湾の南端を占める火山（駒ヶ岳）から立ち上る赤い火山灰が、陽光の下で光っていた」と書いています。

バードは平取を訪れた後の帰り道、今度は陸路で函館を目指します。来るときの船上では気が付かなかった有珠山を見つけ、バードは次のように述べています。



イザベラ・バード  
(1831-1904)

1つの峰は深い噴火口から黒い煙を噴出し、別の峰は噴水口の壁のいろいろな割れ目から蒸気や白い煙を出していた。朱色の峰、噴煙、水蒸気。〈中略〉この山の火山活動は活発である。私は昨夜30マイル（約48km）も離れたところで、この火山から火炎の上がるのを見た。

長流川を泳いで渡り、夕暮れの有珠湾を「私が日本で見た中で最も美しい絵のような景色」と書いたバードは、この後、北海道の三大難所といわれた礼文華峠（現在の豊浦町）を通って行きました。徒歩と馬と船だけの、現代よりもずっと時間のかかる旅でしたが、当時バードが見た風景の多くを、私達は今も見ることができます。バードが旅した8月、旅人の視線で風景を見ると、新しい感動や発見があるかもしれません。

引用文献 『日本奥地紀行』イザベラ・バード 平凡社 / 画像 Wikipedia より

ジオパークとは、大地の成立ちと、自然、人間とのつながりを楽しく学ぶことができる地域のこと。国内には「ユネスコ世界ジオパーク（国際認定）」を受けた地域が8地域、「日本ジオパーク（国内認定）」を受けた地域が43地域あります。洞爺湖有珠山ジオパーク（伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）は、この両方の認定を受けています。